

「建築物の長期使用シンポジウム」

－持続可能な社会を実現するための材料・部材の耐久性と維持保全－

（概要）

持続可能な社会の実現のための地球規模的課題の一つは、「低炭素社会の実現」である。そのための建築物を実現するための方策としては、「省資源」、「省エネルギー」、および「長寿命」があげられる。この中で、「建築物を長期にわたり良好な状態で使用する（建築物の長期使用）」ことを実現するための具体的方策を提案することは、建設分野に与えられた大きな命題であるとともに、最も現実的な方法であり、一度建てた建物は3世代、4世代と長きにわたり使うことが肝要である。また、「建築物の長期使用」は、「省資源」、「省エネルギー」を目標とする多くの場合にも、貢献できる方法であると考えられる。その具体的な方法については、例えば建物の使い方を工夫するといったソフト的な対応や、SI（スケルトン・インフィル）住宅といった構法的かつ制度的な仕組みによる対応などさまざまなアプローチが考えられる。

このシンポジウムでは、そういった“さまざまなアプローチ”による「建築物の長期使用」を実現するためにおいても、ベースとなるのは材料や構造物自体の耐久性の確保・向上が特に重要であり、必要不可欠であるとの認識で主題を設定している。また、使用される材料・部材の耐久計画に基づき、適切な維持保全が実施され、耐久性の維持が図られるとともに、建物の生産や維持保全に関する情報を必要なときに活用できる環境を整備する必要があると考えられる。

本シンポジウムでは、最初に、建築研究所が研究を実施した、建設省総合技術開発プロジェクト「建築物の耐久性向上技術の開発（1980～1984）」における成果のレビューと、建築物の長期使用の観点からの今日的な課題について、当時の主たる研究担当者の方々から概説をいただく。

次に、現在、建築研究所で実施している建築物の長期使用を実現するために必要な建築材料・部材の耐久性に関する技術や建築物の維持保全に関する技術、ならびに耐久性や維持保全に関する様々な情報の活用技術に関する研究について説明を行う。

最後に、建築物の長期使用のために必要な材料・部材の品質確保・維持保全技術について、パネルディスカッションによる討論を行う。

「建築物の長期使用シンポジウム」

ー持続可能な社会を実現するための材料・部材の耐久性と維持保全ー

プログラム(案)

日 時 : 平成 22 年 2 月 10 日(水) 13:00~16:30(予定)

場 所 : 建築会館ホール(東京都港区芝 5-26-20)

主 催 : 独立行政法人 建築研究所

後 援 : 国土交通省、(社)日本建築学会、日本建築仕上学会、(社)日本コンクリート
(予定) 工学協会、(財)建築保全センター、(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センタ
ー、(社)建築業協会、(独)都市再生機構、(財)ベターリビング、(財)建材試
験センター、(財)日本建築総合試験所、(社)日本木造住宅産業協会、(社)
日本ツーバイフォー建築協会、(社)日本木材保存協会、(社)日本ファシリティ
マネジメント推進協会、(社)建築・設備維持保全推進協会、日本建築仕上材
工業会

定 員 : 195 名

参加費 : 無料(ただし事前登録あり)

資 料 : 無料配布

- 13:00 開会挨拶 (独)建築研究所 理事 伊藤 弘
- 13:05 「建築物の長期使用における材料・部材の品質確保・維持保全の意義と今後
の取組への期待」
日本大学 教授 友澤 史紀 氏
- 「耐久性総プロの成果のレビューと建築物の長期使用の観点からの課題」
- 13:30 (1) 鉄筋コンクリート造
宇都宮大学 教授 梶田 佳寛 氏
- 13:50 (2) 鉄骨造
ものづくり大学 教授 近藤 照夫 氏
- 14:10 (3) 木造
宮崎県木材利用技術センター センター長 有馬 孝禮 氏
- 14:30 (4) 外装仕上げ
(財)ベターリビング アドバイザー 楡木 堯 氏
- 14:50 「建築研究所における建築物の長期使用における材料・部材の品質確保・維
持保全に関する研究について」
(独)建築研究所材料研究グループ 上席研究員 鹿毛 忠継
- 15:10 (20 分間休憩)
- 15:30 「建築物の長期使用を実現させる材料・部材の品質確保・維持保全技術」
に関するパネルディスカッション
コーディネータ
(独)建築研究所材料研究グループ長・建築生産研究グループ長 長谷川 直司
- 16:30 閉会